

そよかぜ

題字 小野倉藏

なかへ学院
中部少年学院後援会

〒750-0081
山口県下関市彦島角倉町
3丁目6番17号

TEL (083)266-1934

発行 広報部

印刷

(株) ナカハラプリンテックス
TEL (083)266-4601



70周年



創立70周年を迎えて思うこと

常務理事 秋枝研二

昭和21年、戦後の混乱期に司法少年保護団体として財団法人中部少年学院が産声を上げ、すでに70周年を経過しようとしています。昭和27年、社会福祉事業法の施行により、社会福祉法人に衣替えしましたが、私よりちょっとお兄さんになります。この年齢になり、若い頃は想像もしなかった(できなかった)創設者小野倉藏ご夫妻のご苦勞を、少しは想像してみようになりましょう。過去を省みる年齢になったということでしょう。

「故きを温ねて新しきを知らば、以て師たるべし。」という孔子の教えがあります。もとより師には遠い私ですが、60才を過ぎれば、若い人に過去を伝えていく、そういう役割もあるのかなと意識し始めています。数多くの先達のご苦勞に思いを馳せながら、これからの中部少年学院を考えていきたいと思えます。



今年の6月に「児童福祉法等の一部を改正する法律」が公布されました。児童を権利の主体として捉えた画期的な改革です。児童の養育環境もより家庭的な環境を優先するということが法律に明記されました。従来の施設よりも里親やファミリーホーム等に優先して入所させるということです。これにより、施設もその有り様を変えて行かざるを得ない状況です。しかし、どのような状況になろうとも、戦後の混乱期に比べれば、まだまだでしょう。日々子どもたちから生きるエネルギーをいただいている私たちですから、この子どもたちの最善の利益を求めて、最大の努力をしていきたいと思えます。その先に中部少年学院の未来が見えてくるでしょう。多くの皆様のご支援により、平成23年度に児童養護施設が新しくなりました。次は乳児院の建替です。課題は山積しています。これからもご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ホーム便り

花ホーム

前年度まで幼児中心だった花ホームが4月からは未就園児〜高校生までの女兒ホームとなり新しい仲間での生活が始まりました。今まで別々のホームで生活していた為、最初の頃は遠慮もありとても静かな日々を送っていましたが、日にちが経つにつれお互いの事を気に掛ける様になり今ではとても賑やかな毎日です。未就園児は今年度、日舞指導ボランティアが隔週で来院され指導を受けています。今はまだ遊びの段階ではありますが見様見真似で踊る姿はとても可愛らしいものです。クリスマス会で皆さんに披露できる日を夢見て練習を頑張っています。小学生や中学生は夏休みに油谷青少年自然の家に宿泊し海遊びは勿論バーベキューや花火・カヤックや釣りを楽しむ事が出来ました。夏休みの間にいろいろな事に挑戦し、心も身体も成長した：かな？子ども達の笑顔の為にホーム職員が力を合わせ日々支援をしていきたいと思えます。



海ホーム

今年から海ホームには新しい先生達と初めての未就園児、久しぶりの幼稚園児がやって来て、新しいスタートの一年が始まりました。未就園児と幼稚園児が来たことでとても賑やかになり、優しく接する年長児の姿も見られるようになりました。中高生のみんはゲームをしすぎているのが少し気になります。それでも時々グラウンドで年齢関係なく野球をして体も動かして遊んでいます。バランスよく遊んでほしいと願っています。

夏休みには、初めて青年の家に泊まり、シーカヤックや釣りにも挑戦しました。大部屋で鳥ホ

ームの男の子とも全員一緒に寝た事も楽しい思い出です。他にもプールや海水浴、祭りなどの夏の行事も、晴天が続く暑い中、負けずじじじり楽しんで過ごしました。部活やスポ少の子ども達もよく頑張りました。



楽しかった夏も終わり、受験生と卒院生のいる海ホーム。気持ち切り替えて、頑張っていきます。

月ホーム

今年度の月ホームは、幼児さんから中学生までの女の子が生活しています。女の子がそろそろと騒がしいのなんのつて。お喋りに歌、月ホーム得意のダンス、最近折紙紙を使つての製作やごっこ遊びが流行りです。中学生のお姉さんたちは、思春期真っ盛り。自分たちも通り過ぎてきた道とはいえ、なかなか難しい年頃です。私たちもきつとそうだったんでしようけど…。

そんなメンバーですが、この夏はとても楽しく元気がいっぱいに過ごしました。海やプールで真黒に焼け、お祭りでは財布の紐が緩んで大変なことに。でも、思い出はお金で買えませんからねーそして、みんなが楽しみのキャンプは、初めての場所へ。油谷青少年自然の家で、釣りにシーカヤック、バーベキューとたくさん経験が出来ました。

これからも色々なあることでしょうか。でも、振り返った時に「月ホームでよかったね」と言えるようなホームでいたいと思います。



鳥ホーム

四月から三歳児を二名迎え、メンバーも少し代わり新しい学年になりました。三歳児の元気なこと！今は、来年から幼稚園に行く為に排尿排便の練習をしています。中学生三名は私達がうるさく「勉強！勉強！」と言っているせいか、すこしだけ評価も上がりました。結果がどうでも勉強は渋々という感じで取り組んでいます。中学校小学校に入学した子ども達も慣れました。中学校に入学した二名はそれぞれ部活に入り夏休みも頑張りました。夏休みはバイト部活、宿題、遊びと生懸命取り組みました。今年は、キャンプもプールも始めて行く場所、楽しむ事が出来ました。キャンプの写真には子ども達の話では「オーヴが映っている」とのことと「女の幽霊を見ました」と盛り上がっていました。怪我也病気もなく楽しい夏休みが過ぎました。二期子ども達の更なる成長を期待し、職員も一緒に成長していきますように。



風ホーム 風ホームは、四月から子ども職員共にメンバーがガラリと変わりました。幼稚園児から高校生まで、とても個性豊かにぎやかなホームです。仲が良いけどけんかするとは言いますが、毎日毎日けんかが絶えません…。でも！けんかした後はきちんとして「ごめんね」と謝ります。

この夏はたくさん思い出が出来ました。海水浴や川遊び、夏祭りや青年の家でのお泊り！お泊りではスイカ割りや花火、バーベキューなど夏を感じる事がたくさん出来ました。おかげで顔も体もまっ



くろけ。日焼けがとても良い感じ。風ホームの写真は、はたるの里公園です。水の勢いがすごく、子どもたちは大喜びでした。

毎日いろいろな事があり、職員と子どもがぶつかる事もあります。でも、子どもと一緒には過さず子どもから助けられる事もたくさんあります。これからも、スパーにぎやかな風ホームをよろしくお願ひします。

紙風船便り

紙風船では、夏休みにみさかの森で指導員をされている

下田裕先生を講師として招き、地域のごもたちを集め、彦島公民館で工作教室を行いました。今年も30名近いごもたちが参加してくれストーンペインティングに挑戦しました。

自分で好きな石を選び、下書きをして丁寧に染みながら色を塗り、様々な作品が出来上がりました。石の形に合わせて絵を描いている子、全気にせず好きな物を描いている子と、子どもならではの個性の出る作品に仕上がったように思えました。作品は、ほとんどの子が学校の宿題の作品として持って行くようです。今年度の工作教室の雰囲気としては、全体的に真面目な子どもが多く、約束もしっかり守る事が出来ました。

今後このような活動を通して、紙風船の認知度を上げ、地域に根ざした気軽に寄れる紙風船を目指して頑張りたいと思います。



乳児院便り

好天に恵まれたこの夏、少人数に分かれ、「吉母海水浴場」「ヒコットランドマリナー」「アドベンチャープール」にそれぞれ出掛けました。浮き輪を使用して気持ち良さそうに浮かんだり、海では砂山作りやスイカ割り、プールでは大きな水鉄砲や滑り台を楽しみ、笑顔と歓声の絶えない一日を過ごしました。数日経つても「ウミイッタネ」「プールのイッタネ」と思い出を語り合い、楽しい夏のレジャーを満喫しました。



そよ風便り

放課後等デイサービス利用児の夏休み

夏休みの四十日余りは、自然体験、社会経験を広げる期間でもあります。そよ風を利用する保護者の中にも、夏休み期間中のみ療育を希望する方も多いため、普段の放課後等デイサービスは学校生活が終了してから始まりますが、夏休み期間中は各家庭に迎えに行きます。そのため、午後の開始時刻十二時に間に合うように、午前の児童の療育と平衡して送迎車を手配したり、支援の準備をしたりと多忙な日々でした。

夏休み中の療育指導の中心は「水遊び」でしたが、長時間そよ風で過ごす児童に、夏ならではの楽しい体験を与えるだけでなく、衣服の着脱、トイレ指導、準備運動、遊具の



後始末などの学習も繰り返しの中で身につけることができました。今年の夏休みは特に暑く、三十五度を超す猛暑日が何日も続きましたが、そよ風での水遊び、かき氷などの思い出を胸に、二学期も元気に登校して頑張ってくれることを願っています。

【寄附・寄贈】平成28年3月～9月 たくさんの方のご支援に心から感謝 申し上げます

- 下関遊技場防犯組合
- 日本料理つか佐
- 粟田幹雄
- 宇部魚市場(株)
- こだまさん
- あしながおばさんの会
- 船中保志・律子
- 社会福祉法人
- 宇部市社会福祉協議会
- 下関漁港沖台底びき漁業
- ブランド化協議会
- 海上自衛隊下関基地隊
- 旬タカジヤ、バンアウテモ、アトリエ心
- 藤田昌雄
- 太古窯 白石家門
- 国際ソフテニス東下関
- 青年神職会
- 匿名女性
- 奥谷博明
- 赤間神宮薬道敬神会
- 公益財団法人海技教育財団
- 石川縫子
- 株式会社wホーディングス
- 竹下朋子
- 美達大和
- 小園喜代子
- 折田紗代子
- 東海林拓也
- 合田燃料機器(株)
- 中村精治
- 若松千津子
- リビングデイサービス
- 河野元子
- 株式会社コゴランド
- 大江正人
- セブイレブン福浦店
- 彦島八幡宮
- 中尾 清
- 長井邦子
- 山本和実
- フードバンク下関
- 三松庸裕
- 剣持研治
- 大和有子
- ギョウジヤン株式会社
- 常関寺 内田哲司
- 井上邦子
- 東洋出版(株)
- 山口瑞穂・木原隆朗
- 下関そらじに学ぶ会
- 前田正子
- 塩屋康子
- 旬フレイト工業
- 植田実知子
- 浜崎 猛
- 夢現の会
- 中重敏光
- 榎ものばんく
- 大久保聡志
- 富賀見紀子
- 河崎美恵子
- スタミューズ山下晴美
- 特急はんにゃ
- 日軽パナールシステム
- 山口洋郎
- 青木隆行
- (敬称略)

木暮実千代と社会福祉活動④

いきのいいサンマを食べさせたい

寺田 弘

木暮が本格的な社会福祉活動に関わったのは、『鐘の鳴る丘』少年の家だった。そのきっかけはテレビ放送だった。

今から約50年前、テレビ朝日の番組で出演者に思いもかけない人物をぶつけて本番で対面させ、涙、涙でむすぶ『涙の対面』を売りにした番組があった。昭和39年6月に木暮はある青年とその番組で対面した。彼は昭和22年の戦後のどさくさの時代のクリスマスの方、銀座の街角でポンと200円を木暮からめぐんでもらった靴磨きの戦災孤児だった。当時の200円は現在の3〜4万円くらいだ。

当時、少年だった彼はその人が人気映画スターの木暮であることを知り深く感じ入り、それまでの不良少年まがいの生活におさらばして保護施設に入り、群馬県の大胡(現前橋市)に兄貴分や同輩たちと、『鐘の鳴る丘』少年の家をたちあげ、その後アメリカ人に支援され彼の地に渡っていた人だった。その彼が、17年の時を隔てて彼女の前にたつたのだからまさに涙、涙のご対面だった。

それが縁で彼女は、その少年の家の後援会長を18年間つとめた。世話好きの彼女の行動はすさまじかった。映画のロケの合間にトラックを仕立て千葉県の銚子にファンをかりだして新鮮な魚を買い付け、「いきのいいサンマをあの子たちに食べさせたい」といつて施設に届けたり、施設で行われる催しには必ず日程をやりくりして出席し、死後のことまで考え同施設を受取人として現在の金額で2〜3億円の生命保険にまで入っている。

話はがらりと変わるが、その間に梅光学院の広津院長からバトンを受けて、あるハンセン病患者であった女性に経済面での支援をし続けたことも彼女の隠徳の一つとして是非知っておいて欲しい。

7才で発病したその人は手足を失い失明もし、全身麻痺のなかにあつて、支援者が木暮であったことを後で知り、感激と感謝のうちに句を記した。

その中の一句——『かへりみて 豊かに病める 走馬燈』。

彼女は晩年、こころゆたかに、日々悠然として81才で昇天したという。



社会福祉法人 中部少年学院後援会
平成27年度 収支報告書

単位 円

Table with 5 columns: 項目, 決算額, 予算額, 差引, 摘要. Rows include 収入の部 (年会費, 寄附金, etc.) and 支出の部 (事業費, 広報費, etc.).

平成27年度 決算報告

資金収支計算書

(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日

(単位 円)

Table with 7 columns: 勘定科目, 合計, 本部, 児童養護, 乳児院, 紙風船, そよ風. Rows include 収入 (児童福祉事業収入, etc.) and 支出 (施設整備等支出, etc.).

貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位 円)

Table with 4 columns: 資産の部 (科目, 金額), 負債の部 (科目, 金額). Rows include 流動資産, 固定資産, 基本財産, etc.

社会福祉法人 中部少年学院後援会 様
平成27年度の収支について、上記のとおり報告いたします。

平成28年5月19日

社会福祉法人 中部少年学院後援会

会 計 小田 崇明

監査の結果、上記のとおり整理されており正当と認めます。

平成28年5月19日

会計監査 小倉 國雄

毅の二字



啓さんの知恵袋

理事長 石川 啓

人間の心の動きには、他人には温かく、自分には厳しくという二つの軸があります。毅という文字は、自分に向かう心の動きで意思が強く決断力のあることを表します。名前では、「つよし」たけし」と訓まれています。

後援会加入のお願い

後援会事務局

法人年会費 10万円
個人年会費 10千円

何口加入されてもかまいません。
お問い合わせはなかべ学院まで

TEL 083-2661-1934

編集後記

古稀を迎えて 古稀の由来は中国の唐の詩人、杜甫の詩に由来すると伝え聞いております。唐の時代は今から1000年以上前であり、70歳まで生きることが非常に希であったようです。平均寿命が伸びている現在には、ますます健康でいられるようにという意味を込めまして、「紫色」の物を送るしきたりが残っております。

なかべ学院も多くの皆様のご縁を頂き、創立70周年を無事に迎えることができました。これも偏に後援会の皆様のご支援、ご協力のおかげと心より厚く御礼申し上げます。70周年を契機に創立者小野倉蔵先生の創立の「心」に立ち戻り、なかべ学院が地域の子育てステーションとしてさらに充実していきますよう、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

大恩ある関係者の皆さまに心より厚く御礼申し上げます。

(太刀山 逸男)